

三中だより

令和6年度 11月号



令和6年11月8日発行
荒川区立第三中学校
(学校通信 No. 10)
校長 小柴 憲一

本校の校内研究

本校では「個の特性に応じた特別な配慮 ～道徳科の授業を通して～」をテーマに校内研究を行っています。

まず、「個の特性」とは、子ども一人一人の特性のことであり、35人在籍している学級であれば35の特性があります。その中には、思春期という時期に現れた独特な特性、内科的・外科的病気による特性、これまでの生活体験を要因とする特性、先天的にもっていたであろう特性等さまざまあります。

普段の授業では、子ども一人一人の理解度や達成感などを大事にした授業を展開しておりますが、いずれの教員も100点満点の授業ができているわけではありません。私自身の経験でも、100点満点の授業ができたという経験はありません。それは、必ずしも全員の理解が進んだわけではないし、全員に達成感を味わわせたわけではないからです。その壁となっているのが、「一人一人の特性を十分に踏まえた上で、個に応じた適切な配慮をする」ということなのです。

そこで研究授業では、対象学級の中ですべての子どもが授業に参画できるようにするために、学級の実態や他の学級にはない特徴的な良い面や課題となる面を指導案に記述しています。「積極的に発言する子どもが多い一方で一部の子どもは強い発言に流されて思考が進んでしまう傾向にある」「グループになったときには、全体の前では発言できなかった子どもも堂々と自分の考えを発表しグループの意見に反映される」などの全体的な傾向や、「理解できていないときには、窓の方を眺めたりある癖が行動として出たり文房具をいじってしまうなどの子どもがいる」「そのようなときにこのような特別な配慮をすると、それらの子どもが授業に向かう気力が出てくる」等を記述しています。

さらに、指導案の授業をどのように進めていくかを記述する表の中では、例えば数人の子どもの集中が途切れて手遊びを始めてしまいそうな場面で、指導者がそうならないような配慮をするのかなど、授業を進めていく場面・場面で、「予想される子どもたちの状況とそれに対する指導者による配慮」を記載しておきます。

これらが記述された指導案を全教員が見ながら、研究授業を視察し、今回の授業を通して子どもたちは望ましい変容をあげたか、一部の子どもにとって効果的だった特別な配慮は何か、指導案上では予想されていなかった子どもの困り感は無かったか、またあったとしたらどのような特別な配慮をすれば良かったかなどを全教員が参加して協議します。これらにより、教員は自分の学級や学年の子どもたちの特性と、特性に応じた配慮に対する理解を深め、実際の授業や学級活動などに応用することができるようになります。

次に、なぜ「道徳科の授業を通して」なのかについては、3つの理由があります。

第一に、道徳科の授業は基本的に学級担任が指導するからです。学級担任は最も一人一人の子どもをよく理解しており、学級活動・給食指導・清掃指導など一日のあらゆる場面で適切な配慮をします。また、三者面談などを通して保護者の方の願いを聞き取っています。つまり、他の教員への波及効果を考えたとき、学級担任が指導者となる方が効果的だと考えたからです。

第二に、子どもにとっては他の教科のように積み上げた知識や技能をほとんど必要とはせず、そのときの教材を理解すれば、子ども一人一人の生活経験上から構築されてきている、生きていくための物事の判断基準や望ましいと思われる行動基準だけで学習を進めることができるからです。

第三に、道徳科の授業ではグループによる協働学習を取り入れやすいからです。第二で挙げた判断基準や行動基準というのは他者と比較して初めて自分を振り返ることができます。ですから、3～4人による意見交換や協議というのはとても効果的であり、発表することを苦手とする特性をもっている子どもにとっては、少人数で一つのテーマについて意見交換や協議をすればいいので、困難を克服しやすい学習方法なのです。

本校では、研究授業が行われるたびに、他教科等においても子どもたちの予想される状況と、

そのために事前に用意しておく配慮事項などが準備されるようになり、「一人一人の子どもを大事にする」という姿勢が授業場面にも広がっているところです。

なぜ面接選考が必要なのか、どのようなことに留意すればいいのか

この内容は、保護者の皆様にご家庭でご協力いただきたいという目的とともに、子どもたちにも知ってもらいたいという意味も込めてお伝えします。

1 なぜ面接選考が必要なのでしょうか

面接選考は調査書点、学力検査、実技検査、論文などでは測ることのできない、その受験生が本校で望ましい生活を送ってくれる人物かどうかをみるためにあるのです。具体的にいえば、「学校生活全般に対して意欲が高く、秩序を守り、本校の発展のために寄与してくれる人材かどうか」ということです。

ですから、「(1)なぜ本校を志望するに至ったのか」「(2)中学校ではどのような学校生活を送っていたのか」「(3)学習に対してどれだけの高い意欲をもっているのか」「(4)本校に入学したらどのような生活を送りたいと思っているのか」「(5)成功体験・失敗体験から何を学び、今後の生活にどのように生かしていくのか」を聞き出す設問が考えられ、立ち居振る舞いからはフォーマルな所作や標準服の着こなしができるかなどが見られます。

(1)設問「なぜ本校を志望するに至ったのか」

とても重要で必ず聞かれる設問です。数多くある学校の中から本校を選んだわけですから、確たる理由があるはずですが、抽象的な表現や通り一遍の志望理由では説得力がありません。仮に、第三中学校に入学するために面接選考があつて、私が面接官として志望理由を尋ねたと仮定して、点数が低い例は、

- ×「校訓の『人間として輝く』が気に入ったからです」⇒(人間として輝くってどういうことですか)⇒「キラキラと光って立派な人間になるということです」
- ×「生徒数が多くて友達がたくさんできると思ったからです」⇒(生徒数と友達の数というのは比例するものなのですか)⇒「多分そうだと思います」
- ×「歴史が古く伝統があるからです」⇒(本校と同じ創立年数の学校もありますがなぜ本校なのですか)⇒「……、一番伝統を引き継いでいると思ったからです」

逆に点数が高い例は、

- 「実際に学校見学会で見ても、またホームページで見ても、生徒さんたちが一生懸命勉強しており、そのような環境で私も勉強したいと思ったからです」⇒(中には勉強している振りの生徒もいるかもしれませんよ)⇒「『振り』だとしてもそういう雰囲気をつくっていることには違いないので私はとても気に入りました」
- 「経営方針に書いてある『一人一人の子どもを大事にする』のとおり、見学したときには先生たちが常に廊下にて生徒さんたちに声をかけていたり、相談に乗ったりしている様子があったので私も安心して学校生活を送れると思ったからです」
- 「合唱コンクールを見たとき、生徒さんたちがクラスで団結して一生懸命になっており、勝っても負けてもすがすがしい雰囲気だったので、そんなクラスで私も学校生活を送ってみたいと思ったからです」

これらのように、単に理念や校訓だけを述べるだけではなく、実際に自分が見たり調べたりし、その感想を交えて、「どのような印象をもったのか」「だから自分もこの学校で・・・をしたい」ということを2つ程度述べるのが望ましいです。

(2)設問「中学校ではどのような生活を送っていたのか」

このことを聞く設問例としては、「中学校生活の一番の思い出は何ですか、それはなぜですか」「中学校生活で一番頑張ったことは何ですか」「中学校ではどのような生徒会活動(部活動・ボランティア活動等)を行っていましたか、それはどのような活動ですか」「あなたの中学校はどのような学校ですか」などがあります。

いずれも、友達と一緒に何かをすることに喜びを感じていたり、勉強だけでなく様々な活動に一生懸命取り組んでいたり、自分の役割を果たそうと責任ある行動をとっていたり、自分の中学校の特徴を熟知していたりするなど、意欲ある中学校生活を送っていたかどうかをみるための設

問です。これらの設問に高い評価を得られた受験生に対しては、「本校に入学しても一生懸命本校の活動に取り組んでくれるだろう」という期待をもってもらえます。

(3) 設問「学習に対してどれだけの高い意欲をもっているのか」

このことを聞く設問例としては、「得意な教科と不得意な教科を教えてください、〇〇はなぜ不得意なのですか、これからどのように克服していきますか」「授業中に分からないところがあったときどのようにしましたか」「塾などではなく家の中ではどのような学習をしましたか」などがあります。

いずれも、苦手な箇所を克服する具体的な考えはあるか、理解できないときにそれを解消するための具体的な手立てをとってきたか、自分の計画で自分を律して学習に取り組む姿勢や習慣はあるかどうかをみるための設問です。これらの設問に高い評価を得られた受験生に対しては、「本校に入学しても苦手な教科や分からない箇所を克服・解消しようと努力してくれるだろうし、授業は真面目に受けてくれるだろう」という期待をもってもらえます。

(4) 設問「本校に入学したらどのような生活を送りたいと思っているのか」

この設問に対する回答では、志望動機で「貴校の・・・という自主学習のシステムを使って更に学力を高めていきたいと思ったからです」などと、具体的な内容を答えた受験生の場合は、同じ回答の繰り返しを考えられますが、それは全く問題はありません。むしろ一貫した考えだということでより高い評価が得られることでしょう。そのような場合は「志望する理由のときも申し上げたことなのですが・・・」と前置きしてから回答すればいいのです。

ただし、この設問の場合は、1つだけというのは少し寂しく感じます。学習面・学校行事・生徒会活動・友達関係・部活動・卒業後の進路などから2つ程度網羅できる方がいいと思います。例えば、「勉強では英語の学習に力を入れ、体育祭などの行事にはクラスのみんなと一生懸命取り組みたいと思います」「生徒会の役員として自治の力をより強くし、将来の夢である会計士の資格を取るために商学部のある大学への進学を目指したいです」「志望する理由のときも申し上げた・・・を頑張ることと、新しい友達を増やして楽しい学校生活を送りたいです」などは、そのあと面接官としても聞きたいことが出てくるので有効な回答です。

(5) 設問「成功体験・失敗体験から何を学び、今後の生活にどのように生かしていくのか」

この設問の場合、成功体験というよりは、失敗した体験や苦しかった・つらかった体験などのマイナス体験から切り出すことが一般的です。

面接官が知りたいことは、どんな失敗をしたか、どんな苦しい思いをしたかではありません。「①どのように切り抜けたのか、あるいは立ち直ったのか」、「②その体験から何を学んだのか」を聞き出します。そして、一番聞きたいことは「③その学んだことは、今後のあなたの人生でどのようなときに役に立つ、生かされると思いますか」に対する回答です。

その③の回答が、結局将来起こりえる同じような場面のことしか言えないのならば、「学んだことを広く活用していこうという力に欠ける」と評価されます。逆に、「高校生活や人生では、・・・の場合や・・・の場合などがあると思いますが、それらのときにこの学んだことを生かして・・・していこうと思います」と、受験生が実際に体験した場面とは全く異なる場面をあげて回答すると、広く活用する力(汎用性)があるとみられ、この人物は、学んだ一つのことをそれだけに終わらせずに、あらゆる局面で活用していくことができる「伸びしろのある人物だ」という高い評価を得ることができます。

2 どのようなことに留意すればいいのでしょうか

まず、設問に対する回答では、「端的に、聞かれたことだけに回答すること」です。聞かれてもいないのに理由を述べたり、同じ内容を長々と繰り返し述べたりしないようにします。面接官は、回答を聞いて疑問に思ったり、さらに知りたいと思ったり、関心をもった内容に対しては、「それはなぜですか」「例えばどのようなことですか」などと聞いてきます。限られた時間の中で、面接官が知りたいことをできるだけ多く伝えるためには、聞かれていないことには触れずに「さあ、次は何を聞きたいのですか」という姿勢をもつように心がけてください。

その他は、「フォーマル」を原点として考えれば、入退室や礼の仕方や座り方と座っている姿勢などは分かるはずですが、今年度まで、面接指導をしていて、フォーマルな視点から気になったことをお伝えします。

(1) フォーマルな場面での正しい話し方をしてこなかったんだな

「お母さんと見学に来ました」「母がおっしゃっていました」「・・・ですね」「・・・ですかね」「やっぱ・・・」「自分的には・・・」「チャリで・・・」、運動部のあいさつのような場に広さにそぐわない大きな声の「よろしくおねがいしあーす」などは、フォーマルな場面で親戚や地域の方、先生方と正しい会話の仕方をしてこなかったんだなという評価を受けます。

(2) 困っているときは常に誰かの助けを求めてきたんだな

抽象的で曖昧な回答をしたので「それはどういうことですか」と尋ねたとき、なんて答えたらいいか分からなくなって10秒以上も黙ってしまう人がよくいました。10秒はとても長い時間です。面接官としては時間がなくなってしまうので、おそらく「それではこのことはいいです」として次に移ると思いますが、この受験生は黙り続けるという行為で、フォーマルな場面でも誰かに助け船を出してもらうことを期待し、実際にそうしてきてもらってきた人なのかなという印象をもってしまいます。

頭の中を整理して言おうと思うのなら「少しお時間をください」と言ってから話し始めるとか、回答できそうにないのなら「すみません、うまく言うことができません」と正直に言う方が印象は悪くなりません。

(3) ポケットのフラップ、リボン・ネクタイの曲がり、セーターの裾がブレザーから出ている

標準服はフォーマルウェアです。ですから、フォーマルな着こなし方をしなければなりません。ポケットのフラップに関してはポケットの中にゴミが入らないようにという目的があって、一説には、外出時は外に出して建物の中に入ったら中に入れると言われますことがあります。ブレザーの着こなし方としては常に外に出している方が無難です。特に、片方だけ外に出ているとか、一部だけが中に入っていてフラップがよれているというのはとても気になります。

1・2年生も理解すべきこととして、標準服を着用しているということはフォーマルな着こなし方とフォーマルな場面での立ち居振る舞いを学ぶことだということ、そして「中学生らしい」身なりをするということがあります。「中学生らしい」というのは人によって解釈の仕方はあるかもしれませんが、世間一般的にどのように解釈されているかを前提に考える必要があります。

面接選考をする側が、染色した頭髮、ツーブロックやパーマをかけた髪型、膝上の長さのスカート、今では流行ではなくなりましたがかつてのボンタンや短ランなどは、面接官から「中学生らしい」と評価されるのかどうかはお考えください。

保護者の皆様にも、本校ではそのような観点から、あいさつ・服装・頭髮・話し方・授業を受ける姿勢などについても、子どもたちに指導をしていることをご理解いただきたく存じます。

その税金 誰かの笑顔を 作り出す

お知らせ

- 第77回東京都中学校支部対抗陸上競技選手権大会において、以下の成績を収めました。
男子2年100m 第7位 水谷 朝陽 記録:11秒60
- 中学生の「税の標語」において、以下の成績を収めました。
荒川区間税会入選 3年 上野 優真 作品:踏み出せば 未来広がる 税の道
3年 土田 瑛太 作品:その税金 誰かの笑顔を 作り出す
3年 湯浅 梨央 作品:私たちの税金で いい国つくろう 今も未来も
- 令和6年度荒川区文化祭俳句展において、以下の成績を収めました。
優秀賞 3年 木村 碧良 作品:夏至の日に 昇った太陽 照らす肌
- 第19回都立工芸高校夢コンペにおいて、以下の成績を収めました。
ドリーム賞 3年 柄澤 怜花 作品名:空を泳ぐ
※ 毎年、中学生が定型サイズの用紙に描かれた絵画・イラスト作品を応募し、工芸高校の文化祭「工芸祭」を
発表の場として審査を行っているものです。今年は827の応募作品の中から入選しました。
- 10月24日に開催された第43回連合英語発表会に、本校代表として以下の子どもたちが参加しました。
スピーチ部門 3年 弘松 帆夏
パフォーマンス部門 1年 堀越 海音・橋爪 美来
- 第73回荒川区民大会陸上競技の部において、以下の成績を収めました。
一般男子4×100mリレー 優勝 記録:46秒2【大会新記録】
大橋 亮佑、高坂 明斗、古越 大也、水谷 朝陽
- 11月16日に開催される汐入ふれあい館の乳幼児運動会に、以下の子どもたちがボランティアとして応募しました。
1年 大澤 寿紀、掛川 大輝、富塚 千広、林 亜美佳、潘 欣怡、河野上 大嘉、石井 諒佑、
児玉 こまち、高屋 沙奈
2年 山際 希乃羽、正岡 凜南